
ウォシュレット

土壇牙ゐバイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウォシュレット

【Nコード】

N85250

【作者名】

土壇牙ゐバイ

【あらすじ】

ウォシュレットで宇宙に行った話

今朝、いつものようにうんちをしたあと、
ウォシュレットをかけると、ウォシュレットの
勢いが尋常でない強さであることに気づく。

これはいつものウォシュレットじゃない。

ぼくはそう直感した。
自分の体が宙に浮いてしまいそうに
なるようなそのぐらいの強さだ。予想通り、
ぼくの体は宙に浮いた。

ウォシュレットはどどんぼくの体を
上に押し上げる。ウォシュレットの勢いは
その後もとどまることを知らず、ぼくは
天井を突き抜けて、遙か上空へと飛ばされていった。

何層もの雲を突き抜け、ついにぼくは
大気圏に突入した。少し熱かったが、
なんとか耐えた。

そしてあたりは暗くなった。
ぼくはついに宇宙にやってきたのだ。
少し、息苦しかったが、我慢した。

ぼくが宇宙空間をゆらゆらと漂っていると、
一台の宇宙船が近づいてきた。中からは
あきらかに地球人とは姿形の異なる生命体が
出てきた。

こいつらは宇宙人だ！
ぼくはそう直感した。

宇宙人らしき生命体は数秒間ぼくのことを
凝視したあと、なんと日本語をしゃべり出した。おそらく、

数秒の間に他文明の言語を解析できる高度技術を
身につけているのだろう。

彼は手招きをしてぼくを呼び寄せた。

そして、彼はぼくに一言、こう言った。

「あなたはうんちを流していないので、
早く帰って流してきなさい。」

宇宙船はぼくを乗せ、地球まで

送り届けてくれた。ぼくは宇宙人たちに別れを告げ、

自宅に帰り、そして言われたとおり、うんちを流した。

それは時間にして数分間の出来事だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8525o/>

ウォシュレット

2010年11月11日22時36分発行